

グループ指導の目的

集団の相互作用を利用した「気づき」や「理解」の促進
他の親の話聞きながら、自分の子育てについて
客観的に見つめ、これまでの子育てを振り返る。
同時に、虐待体験を語る中で集団の心理的支えに
より親の孤立感を和らげる。

行動理論を取り入れた具体的な子育ての指導
子どもの行動に注目し、具体的な行動の代替案を
提示し、ロールプレイを通して、実際に演じることで
かかわりの改善を目指す。

方法

子育て困難な子どもを持つ親に、役割演技を通して、具体的ななしつけのスキルを教えるプログラム「精研方式 ADHDを持つ子のペアレント・トレーニングプログラム」を適用。

対象ケースの選定

- ① 虐待により入所しているケースを施設の協力によりリストアップ
- ② 施設との信頼度や対象外ケースを除き、ケースを選定
- ③ 保護者の仕事の事情などを考慮し、最終決定を行う。

対象から外したケース

- ①親権者に精神疾患がある
- ②性的虐待のケース
- ③親権者が服役中もしくは拘留中である。または、親権者が行方不明である。
- ④親権争いをしている。
- ⑤親権者が新しい家族を築いており、引取りを望まない。
- ⑥子ども本人が親権者との接触を望まない。

実施場所および実施日時

	実施場所	実施日時
中央	会議室	隔週金曜日PM7:00～8:30 6回シリーズ×2
西宮	H16公民館	第4土曜日PM7:00～8:30 5回
	H17会議室	隔週金曜日PM3:00～4:30 10回
姫路	会議室	第1・3火曜日AM10:00～11:00 8回

職員研修の実施

日 時	内 容	講 師	
H16.7.9	家族支援の一環としてのペアレンティングプログラム作成	加藤曜子	
//	精神科医から見た虐待をした親への援助について	犬塚峰子	
H16.8.19	リスクアセスメントとアセスメント	加藤曜子	
//	育てにくい子どもを持つ親への「ペアレント・トレーニングプログラム」の家族再統合のための応用	講義編	藤井和子
H16.8.24		実技編	藤井和子
H18.2.9	ADHDの子を持つ親へのペアレント・トレーニングについて	基礎編	岩坂秀巳
H18.2.23		応用編	岩坂秀巳

スタッフ役割分担

役割	職種	分担内容
ファシリテーター	心理判定員	進行
コ・ファシリテーター	家族指導事務嘱託員	進行補助・ロールプレイ 実地指導
アシスタント1	保健師	健康面からの助言・ロー ルプレイ実地指導
アシスタント2	児童福祉司	参加者サポート、記録
オブザーバー	施設職員 他の職員	観察
スーパーバイザー	心理判定員	統括

事前ミーティング等

スタッフミーティング（毎週開催）

対象家族の状況把握、担当児童福祉司と施設との連携を図る

セッションのシナリオ作成

スタッフの配置

予想される参加者の反応へのフォロー案

施設職員からの子どもの情報提供

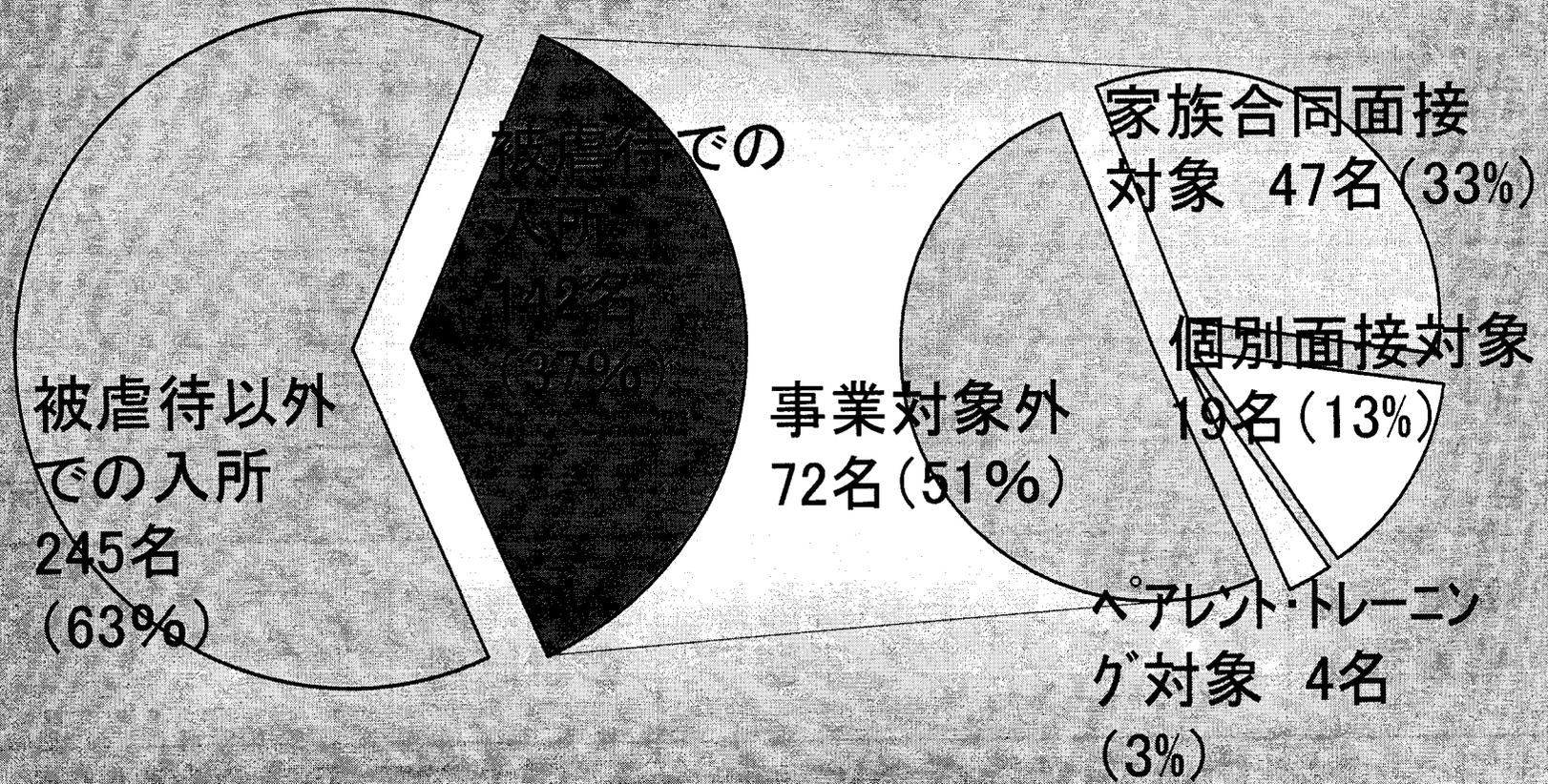
詳細な情報把握とスタッフ間の連携努力

模造紙などを使いプログラムの視覚的工夫

毎回のレジュメ等の用意

施設入所児童数に対する 家族再生指導事業対象者の割合

入所児童総数(西宮)387名(H16.4調べ)



家族再生指導事業実施結果

		ケース数	個別指導 (回数)	合同指導 (回数)	ペアレント トレーニング (回数)	家庭復帰 ケース数
中央	H16	42	191	28	—	8
	H17	78	251	27	31	16
西宮	H16	70	419	58	11	25
	H17	46	265	60	46	5
姫路	H16	36	187	43	—	14
	H17	23	209	34	4	8
豊岡	H16	4	52	12	—	1
	H17	2	14	15	—	0
合計	H16	152	849	141	11	48
	H17	149	739	136	81	29

ペアレント・トレーニング

第2期(2005年9月～2006年2月)

回	日程	テーマ	ポイント
1	9/16	オリエンテーション	ペアレント・トレーニングとは
2	10/7	子どもの行動を3つに分ける	子どもの行動を3つに分ける
3	10/21	してほしい行動を増やす	好きな行動を見つけ、ほめる
4	11/4	子どもの協力を増やす	効果的な指示の出し方
5	11/18	してほしくない行動を減らす①	上手に無視をする
6	12/2	してほしくない行動を減らす②	無視する/ほめるの組み合わせ
7	12/16	前半のふりかえり	
8	1/13	警告とペナルティ	制限を設ける
9	1/30	警告とペナルティ	制限を設ける
10	2/10	これまでのふりかえり	

§ 1 行動に注目しましょう

- プログラム全体のオリエンテーション
- スタッフ、メンバー、子ども紹介

①子どもと一緒にどう過ごすか

- (1) 何をして過ごしていますか？
- (2) 子どもと一緒にいて楽しいことは？

②子どもとスムーズなコミュニケーションするために

- (1) 子どもの「行動」について考えてみましょう
- (2) 子どものしていることを「行動」でとらえてみましょう

③茶菓の準備

§ 2 行動を3種類に整理しましょう

●子どもの行動を注目する効果を知りましょう

☆注目には力があります

☆子どもは注目を欲しがっています

●注目には2種類あります

肯定的な注目(ほめること)

否定的な注目(注意すること)

子どもはいい行動をしてほめられるより、トラブルを起こして注意されることをすることがよくあります

●行動とは

目に見えるもの、聞こえるもの、数えられるもの
のことを言います

●行動を3つに分けましょう

- ① あなたが好きな、もっと増やしてほしい行動・・・ほめる
- ② あなたが嫌いな、減らしてほしい行動・・・無視する＝待つ
- ③ あなたが許しがたい、なくしたい行動・・・制限を設ける

§ 3 してほしい行動を増やそう

●前回の復習

増やしたい行動 (好きな行動)	減らしたい行動 (嫌いな行動)	なくしたい行動 (許しがたい行動)
ほめる・認める	無視する・待つ	警告・ペナルティ

☆ 好きな行動にはどんなことがありましたか？

●あなたの好きな行動をもっと増やすために

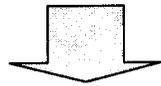
★肯定的な注目を与えましょう

・肯定的な注目とは・・・「ほめること」

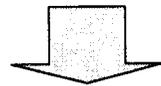
★どんなことをほめるか

★どんなときにほめるか

増やしたい行動(好きな行動)



ほめる



- ①その行動を増やすことができる
- ②子どもは認められていると感じる
- ③他のことでも、協力的になれる

●子どもをほめる機会を見つけましょう

●ほめ方のコツ

- ①タイミング：できるだけ早く
- ②目：子どもと視線を合わせましょう
- ③からだ：子どもに近づき、同じ目線で
- ④声：穏やかな明るい声で
- ⑤感情：感情をこめて。微笑んで・肩に
手をあてて・軽く抱きしめる
- ⑥ことば：簡潔に、しかしどの行動をほめて
いるのかを明確に伝える

§ 4 子どもからの協力を増やす方法 ～ 効果的な指示の出し方 ～

- 子どもからの協力を引き出すために
 - 指示を出す
 - 繰り返す
 - 予告する
 - 選択する
 - 「～したら～できる」
 - ブローケンレコード
 - 指示に従ったときに「ほめる」

§ 5 § 6 してほしくない行動を減らす 上手な無視のしかた

●あなたの嫌いな行動を減らすために

無視とは・・・ほめることを取り去って、好ましい行動が
でてくることを待つことです。

「無視」と「ほめること」を効果的に組み合わせる

嫌いな行動→無視する→待つ→好きな行動→ほめる

●無視のしかたのコツ

- ①タイミング：好ましくない行動が始まったらすぐに無視！
- ②目：子どもと視線を合わせない
- ③からだ：子どものいるほうを向かない、からだの向きを変える
- ④顔：普通で無関心な顔
- ⑤感情：表情を変えないように。ほかのことをして、感情のコントロールを
- ⑥ことば：何も言わず、そぶりも見せず。ため息をつかない。